

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の防除をしよう!

1 地域対策

- ・ 農業機械の洗浄を徹底
※貝が混入した土の移動を避けるため
- ・ 未発生ほ場を優先、高密度のほ場は後回しにする
※発生状況を把握整理しておき、作業の順番を予め決めておく

2 防除

(1) 耕種的防除

- ・ 田植え後3週間は浅水管理(水深を1~2cmに保ち移動と食害を抑える)
- ・ 食害を受けにくい成苗、中苗移植とする(葉齢5葉以上は食害が少ない)
- ・ 畑地への転換(ただし2年間程度の畑地化では密度は減るが全滅は困難)
※ほ場全面を利用する場合は麦作が有効

(2) 物理的防除

- ・ 取水口、排水口に金網(10mm程度)を設置し侵入、拡散を防止
- ・ ほ場や水路で貝を捕殺、卵塊は水中に削り落とす(9月頃まで1週間毎)
- ・ 厳寒期に2回程度耕起し殺傷(地中5cm位までで越冬、寒さには弱い)

この秋冬にとる対策!!

(3) 化学的防除

○石灰窒素施用で殺貝(秋期または移植前1回、ただし基肥の調整が必要)

【秋期】

水稻収穫後(水温15℃以上)に3~4cmに湛水し、1~4日後に石灰窒素20~30kg/10aを全面散布後、3~4日放置する(漏水を防止する)。

【移植前】

荒起し後3~4cmに湛水し、3~4日後に石灰窒素20~30kg/10aを全面散布し、3~4日放置後に代かきを行う(漏水を防止する)。

○薬剤防除

- ・ パダン粒剤4の育苗箱施用で食害防止
- ・ 本田で使用できる薬剤例は下表のとおり
→ 魚や貝に影響するため河川や水路では使用不可(本田散布のみ)

薬剤名	効果	使用量・方法	備考
スクミノン	殺貝	1~4kg/10a・散布	収穫60日前まで
ジャンボたにしくん		1~2kg/10a・散布	収穫60日前まで
スクミンベイト3		2~4kg/10a・湛水散布	発生時
キタジンP粒剤		3~5kg/10a・散布	本田初期
パダン粒剤4	食害防止	4kg/10a・散布	収穫30日前まで
		60~100g/育苗箱	

※苗のやわらかい時期に食害が発生しやすいので、移植後早めの散布が望ましい

《参考》

○スクミリングガイの見分け方（タニシとの比較）

- ・大きい
- ・ずんぐりしている
- ・開口部が大きい



マルタニシ



スクミリングガイ

○生態

- ・寿命は基本的に1年数か月程度
- ・2～3日に一度、数百の卵を産む
- ・ふ化までの期間は2週間程度（25℃の場合）
- ・条件が良ければ、ふ化後2か月程度で成熟する

○環境耐性

- ・半年以上水がなくても生存できる
- ・水温15～35℃で接触活動が活発、14℃以下では活動を停止し休眠
- ・耐寒性は低く、-3℃ではほとんどの個体が3日以内に死ぬ
- ・越冬時は、ほ場の排水口付近など比較的、高水分な場所の地中で密度が高い
- ・全国では関東、東海まで発生（北陸、東北以北は未発生）

○天敵

- ・ネズミ、サギ、カモ（アヒル）、スッポン、コイ、フナ、カニ、ホタル幼虫

○食性

- ・水中で、水生植物等の柔らかい茎葉を摂食
- ・被害植物は水稻のほかレンコン、イグサ、ミズイモなど

問合せ先 下関市農業振興協議会東部支部会
(JA 山口県下関東部営農センター・下関市農業振興課・下関農林事務所農業部)